

●司会　ただいまから「減らそう犯罪」推進会議を開催いたします。それではまず初めに、推進会議会長の藤田広島県知事をご挨拶申し上げます。

●藤田雄山会長（県知事）　本日は、皆様にはご多用中にもかかわらず、「平成17年減らそう犯罪推進会議」に多数ご出席賜り、誠にありがとうございます。これまで皆様と一体となって、「犯罪の起こりにくい広島県づくり」を目標に、全国に先駆けて「減らそう犯罪」県民総ぐるみ運動を展開して参りました。

その結果県内では多くのボランティア団体が結成され、「自らの地域は自ら守る」という気運が高まるとともに、「犯罪件数を3年で3割減少させる」という抑制目標の達成も見えてくるなど、まさに県民、事業者、市、町など皆様の取組が実を結びつつございます。これも皆様の熱意とご尽力の賜であると、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

今後、芽生えた取組の定着と更なる発展を図り、県内外の人々が、安全で安心を実感できる「住んでみたい広島県」を実現するためには、県、警察はもとより、皆様に引き続きご尽力を賜ることが必要不可欠であると考えております。本日は今後の取組状況などにつきまして、ご議論いただくこととしております。皆様の忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

●司会　ありがとうございました。出席者の紹介につきましては時間の関係で、お手元の出席者名簿によりご紹介に替えさせていただきますのでご了承願います。また本日の会議時間は概ね1時間を予定しておりますので、よろしく願いいたします。それでは配付資料につきましてご確認をお願いします。まず、第4回減らそう犯罪推進会議という表紙のレジュメがお手元にあると思います。会議の次第などを記載したもので3枚綴りでございます。それから出席者名簿、席次表がそれぞれ1枚もの。次にカラー印刷で第4回減らそう犯罪推進会議の表紙つきで7ページものがございます。この資料は後ほど、警察本部生活安全部長がパワーポイントを使用して治安情勢等をご説明致します時にお手元で併せてご覧いただければと思います。最後は第4回減らそう犯罪推進会議配付資料という表紙つきのもの、それとカラーの「減らそう犯罪通信」11月号、以上が本日配付の資料でございます。それでは早速ですが、協議、意見交換に移らせていただきます。推進会議規約によりまして、以後の進行を会長にお願い致します。

●会長　議長役を務めさせていただきますので、よろしくご協力お願い申し上げます。それでは本日のテーマでございます、これまでの取組を踏まえての行動目標の設定、県民総ぐるみ運動の今後の展開案につきましてご意見を頂戴したいと存じます。さきほど挨拶

でも申し上げましたが、県内では多くの防犯ボランティア団体が結成され、地域の安全は自ら守るという気運が高まるとともに、犯罪件数を3年で3割減少するという抑制目標の達成も見えてくるなど、まさに県民や事業者の皆様の取組が実を結びつつございます。今後将来に渡り、これまでの取組で得ました成果をさらに発展させてまいりたいと考えております。それでは治安情勢、行動目標の設定、県民総ぐるみ運動の今後の展開方針につきまして、警察本部生活安全部長の野間委員より説明いただきます。

●野間一志生活安全部長 減らそう犯罪広島県民総ぐるみ運動の推進状況及び来年からの取組提案等につきましてご説明いたします。

このグラフは広島県の刑法犯の認知件数の推移を戦後から示しております。刑法犯は、昭和40年代から50年代前半、ちょうど真ん中のあたりに凹の形になっておりますが、比較的治安のよかった時代から平成に入りまして大きく増加し、平成13年から14年には約6万件に達してまさに危険水域の情勢となり、減らそう犯罪県民総ぐるみ運動が始まりました。そして平成14年の刑法犯認知件数を基準として当面3年間で3割減少させるという抑制目標は、1年目の平成15年中は9.8%、2年目の平成16年中は25.3%減少し、着実に成果をあげてまいりました。この減少傾向は今年に入ってからも続いており、本年10月末現在には平成14年同期比36.8%の減少で、政令指定都市を有する都道府県の中でトップとなっております。そして当面の抑制目標の達成は県民運動の大きなうねりの中で実を結びつつあり、指数治安についてはこれまで順調に回復してきたと思っております。また県民の皆様が一番被害に遭いやすい、乗り物等や侵入等の身近な犯罪は約48%も減少するなど大きな成果が上がり、なかでも自動販売機狙いは約84%、オートバイ盗は約62%減少と、事業者の皆さんの堅牢化対策や県民こぞっての暴走族根絶の取組が大きく帰依したと思っております。こうした指数治安の改善に貢献したもうひとつの要因は、防犯ボランティア団体の相次ぐ結成と活動であります。まちづくりの条例施行前は50団体に満たなかったものが、本年6月には451団体、10月末には約10倍を上回る約550団体、23,000人となり、地域の安全は自らの手で守るという活動が広がり定着してきたと思っております。さらには昨年度から2カ年で展開されている安佐南区のモデル事業におけるさまざまな取組、また防犯モデルマンション制度や防犯モデル駐車場制度など、犯罪の起こりにくい意識づくり、地域づくり、環境づくりの取組が県民運動として大きく広がりつつあります。しかしながら、犯罪減少の中でも唯一知能犯が増加し、振り込め詐欺の被害は昨年中が7億3000万円、今年に入っても10月末現在6億円を超えております。今後においても、こうした犯罪やサイバー空間を利用した犯罪、さらには新たな手口の犯罪が増加することも考えられます。加えて殺人事件などの凶悪事件、子どもを狙った犯罪、けん銃発砲事件などが発生しており、依然として県民の多くが治安に対して不安を感じております。今年実施致しました、減らそう犯罪県民アンケートにおきましても全国の世論調査と同様、約80%の方が治安に不安を感じていると回答し

ており、指数治安の改善に併せ、体感治安の改善が重要であることも示唆しております。こうした情勢をふまえ、来年以降の取組を検討してまいりますと、3年で3割減少という当面の抑制目標は間違いなく達成できるところまできているものの、今後とも継続してしかも強力に展開していく必要がある。このことにつきましては、皆様方、どなたも異論がないものと思います。またこれまでに芽生えてきた運動のうねりを定着させ、さらに発展させていく必要があると思います。現在広島県では、来年度から始まる新たな総合計画を作成中ですが、減らそう犯罪の県民運動もこの計画に連動させ、安心・安全を実感できる広島県の実現に向けて取り組む必要があると考えております。このため来年以降の事業の柱を、ひとつめは犯罪の起こりにくい安全なまちづくりの推進、ふたつめは安全・安心を確保するための警察活動の展開とし、県民運動としては安全行動が自然にとれる意識づくり、互いに支え合う地域づくり、犯罪の起こりにくい環境づくりを進めることを提案します。そしてこの運動の広がりにおいて、3年3割という県民にわかりやすい行動目標が効果的だったことを教訓に、来年以降も新たな目標を掲げて運動の定着とさらなる発展をはかることが重要であると認識しております。具体的な行動目標としては、刑法犯の認知件数を今後5年でピーク時の半減を目指すことを提案します。ピーク時の刑法犯認知件数は平成13年、14年の約6万件であり、これを5年間で半減、つまり約3万件に減少させようとするものであります。この3万件という数字は世界一安全と言われた昭和期の水準、昭和40年代から50年代前半の治安情勢、つまり例えればカープが初優勝した昭和50年、広島県民の絆や地方の活力が感じられた昭和期のよき時代の治安情勢に押し戻していこう、人と人とが支え合える時代を目指しながら取り組んでいこうと提案するものであります。ところで本年の刑法犯認知件数の減少推移を月別に見ますと、平成14年の同期比で微増微減、一進一退の傾向にあり、この半減——3万件という数字は極めて厳しく、非常に大きな数字と判断しています。しかしながら、これまで様々な課題に真摯に取り組み、克服してきた地力ある広島県であればこそ実現可能な数字だといえるのではないのでしょうか。また、これまでの犯罪をつぶさに分析すると、乗り物盗難、車上狙い、侵入盗難においては、未だ7千件のものが無施錠に起因する被害であり、防犯設備のない駐車場での犯罪が3分の一の1万4千件あまり発生しています。これから県民の防犯意識が更に高まり犯罪抑止に配した環境づくりを全県的に推進していけば、この大きな課題に立ち向かっていけるのではないのでしょうか。昨年この会議におきまして、小川先生から自主防犯パトロール隊の役割の明確化、情報交換、育成に向けての計画づくり等のご指摘をいただきました。そのご指摘に基づきまして、今年に入ってから取組を進めているところであります。終わりになりますけれども、来年からの、いわば第2期になります「減らそう犯罪県民総ぐるみ運動」においては、県民、事業者、ボランティア、NPO、行政、警察等が役割分担をより明確に認識し、まちづくりの主要な部分を県民、知事部局、市町等に担っていただき、警察は県民の体感治安の改善を図るため予防や指導、検挙活動にも力を入れるというふうな、それぞれの持ち味を活かし、目標と責任を持って、より一層協働した取組が重

要と考えております。そして安全・安心が真に実感できる広島県の実現を目指したいものです。以上であります。平成18年からの運動の展開方針の案の詳細につきましては、資料2としてお配りしておりますので、ご覧いただきたいと思っております。以上で終わります。

●会長 ありがとうございます。野間委員よりご説明を頂戴致しました。行動目標の設定、県民総ぐるみ運動の今後の展開方針案につきまして、皆様方から自由なご発言をお願いしたいと思います。なおここからの進行は事務局をお願いしたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

●司会 それでは事務局の方で司会進行を努めさせていただきます。ただいま野間委員の方からこれまでの取組、あるいは来年以降の行動目標の設定等に関する説明がございました。自動販売機狙いが随分と減少したという説明もございましたけれども、自動販売機の関係の児玉委員、何かございませんでしょうか？

●児玉勝好（児童販売協会） 確かに私どもの業界でも被害が非常に少なくなったと思います。その要因として大きく言えることは、500ウォンなどの偽造硬貨がなくなったこと。それと最近では防犯カメラの設置、電気ドリルで開けられないキーの設置など、自主的に犯罪を起しにくい状況にしたことが良かったのではないかと考えております。

●司会 ありがとうございます。その他にそれぞれの組織団体等で取り組んでこられたことで、ご発言があればお願い致します。それでは安佐南区のモデル事業に大学生の立場から取り組んでおられます山本委員、お願いします。

●山本陽子（安田女子大学） 先日安佐南区で地域安全マップ作りを行いました。子ども達が5～6人のグループで街を探検して、どういう場所で犯罪が起りやすいかというのを点検していく活動です。子ども達は活動が終わった後に「自分たちの身の回りにこんなに危険箇所があるなんて、驚いた」という感想をたくさん残しています。これから未来を作っていく子ども達自身に、どうすれば犯罪は防げるのか、犯罪が起りにくい環境が作れるのかという意識が高まっていくことが大切だなと、すごく実感しました。

●司会 ありがとうございます。防犯ボランティアの立場から日本ガーディアン・エンジェルス細田委員、ご発言ございませんか？

●細田浄樹（日本ガーディアン・エンジェルス） 防犯ボランティア団体がこれだけ増えたのはとても喜ばしいと考えております。また資料のアンケートを見させていただいたのですが、ぜひ参加したいという人が4.5%、機会があれば参加したいという人が65.

3%, 併せれば約7割近くの方が参加したいという結果が出ているのですが、ではどのような機会を作るべきなのかなと考えました。今の防犯団体の方の平均年齢はちょっと高めですよ。このアンケートは免許センターで取られたということですから、若年から高齢の方までいろいろおられると思いますが、30代、40代の方をどうしたら防犯パトロールを含めて活動に参加していただけるかです。私が思うには、普通の30~50代のサラリーマンの方はまず防犯パトロール参加は難しいので、仕事の通勤の帰りなど、コンビニで子どもがたむろしているのを見かけたら、怖ければ声をかけずにその場で110番するとか…ジャンパーなどを着なくても、普通の服装で普通に歩きながら、普通に生活する中で防犯意識を持ってもらえれば、もう少し防犯活動にも役立つかなと考えております。

●司会 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。吉村委員、どうぞ。

●吉村幸子（環境生活部長） 昨年は少年の犯罪防止、今年は子どもの犯罪被害防止のプロジェクトを担当させていただいております部長として、少し発言をさせていただきたいと思います。地域の皆様方、また防犯ボランティアの皆様方のご活動によりまして、少年犯罪も目標達成することができまして、少年犯罪については20%以上の減ということで数値が推移しております。やはりこれは地域の皆様方が目標に対して自分の地域はどうあるべきか、また自分としては何ができるかということをおひとりおひとり考えて活動していただいた賜だと思っております。この減らそう犯罪の動きは来年度からの目標も立てられるということですのでけれども、ひとりひとりが、自分は何ができるかというところを持っていくことでこの運動が定着化してくれば非常に有意義なものになると思っております。

●司会 ありがとうございます。今の吉村委員のご発言に関連して、青少年育成県民会議の上田委員、何かございませんでしょうか

●上田宗嗣（青少年育成会議会長） いくつか申し上げますと…とにかく平成12~14年に随分犯罪が増えていて、広島県では自動販売機荒らしもたいへん増えていますが、皆さんの努力でだいぶ減って、この2~3年は急激によくなっていっている実感がございます。それともうひとつ、挨拶運動というのは2~3年前から県民を挙げて随分やっています。挨拶は原点で、挨拶をするかしないかが犯罪にも影響するくらい状況が分かると言われるくらいですので。11月は全国青少年健全育成月間ですので、県内4箇所一斉に挨拶運動をしました。子どもも朝の7時くらいに集まって1時間くらい行いましたが、挨拶運動も着実に浸透していっていると思います。それともう1点申し上げますと、各地域でがんばっていらっしゃるいろんな人々の紹介をしていく番組を、去年、今年と、広島県青少年育成協議会が県の補助とライオンズクラブとでやっています。毎週3分番組を持っているんですが、県内各地でこれだけの方がそれぞれの地域の現状がこれではいけないと取

り組んでおられる、その多さにびっくりするくらいです。しかも毎年着実に各地域で運動が展開して増えているんでしょうね。それが結果的にはこの犯罪件数が減ってきていることにつながっていると思ひまして、ある意味では確実に確かさを感じつつあります。今は例えばインターネットの問題で見て欲しくない番組だとかひどすぎる番組もあるということ等、できる範囲のことはとりあえずいろいろやっつけていこうということで、運営委員会でいろんな議論が出てきておりますけれども…私自身はここ4～5年くらい、着実に成果が上がってきているなと実感しております。

●司会 ありがとうございます。この3年間いろいろな機会で様々な取組が行われたわけでありまして、他にご発言がございますか。では高濱委員どうぞ

●高濱清子（広島県老人クラブ連合会） やはり犯罪の被害を被るのは子どもや女性やお年寄りなど弱いものばかりでございます。その中の高齢者はより弱いのでございますが、長寿社会におきまして、長生きをさせていただけてありがたいことですが、元気な年寄りを増やそうという運動があります。閉じこもりがちなお年寄りを我々団体の中に引き入れて、社会の風にあたってもらって、いろいろ地域の情勢によって子どもたちと交流する、世代間交流という言葉も使って活動しております。以前はただお手玉を作ったり竹とんぼを飛ばしたりということがございますが、それ以外にも、子ども達の登下校に声を掛けて、小さい地域の中で顔なじみになるようなことをそれぞれの地域が図っていると思ひます。地域のおじいちゃん、おばあちゃんということで、子どもの登下校を守ってやる、声を掛けるということは高齢者でもできるんじゃないかということですね。また詐欺とかいろいろな問題がありますが、そういう問題に当たった場合には、平たく言えば家の中で電話の側に110番や119番、民生委員さんの電話番号など皆に配って貼っておこうとすぐに知らせる、自分ひとりで閉じこもらないということを皆で話し合っております。また地域の警察の方に来ていただいて、詐欺にはこういうものがあるという実例等を聞きながら勉強をしたりしています。つまり年寄りも犯罪に関わらないように予防するという意識を皆で高めようという気持ちが生まれつつあると思ひます。これからも元気なものがそれぞれ健康を守ると同時に防犯のために勉強しようというところが現状でございます。

●司会 ありがとうございます。他にございませんでしょうか？ 連石委員どうぞ。

●連石武則（広島県PTA連合会） 減らそう犯罪ということで、今私たちPTAが子ども達とともに地域をあげての挨拶運動などいろんなことをやっていきながらも、なお子ども達も標的にされる事件や事故が減らない現状で、1点、私の地域が行ったことについてお願いとご報告をさせていただければと思ひます。まず、町内で犯罪が起こったということも地域の方がなかなかご存じないんですよね。私は福山市の沼隈町在住ですが、小学生

の車への引きずり込みや抱きつき、声かけが連続して起こった時、小学校の先生方には連絡網で連絡がついていて、各小学校単位の親に対する連絡はプリントで案内されていたんですが、地域には即座に伝わってなかったんです。そしてその時私は地域の目をどうやって活かしていただくかを考えました。これは地域性があると思うのですが、夕方になるとよく散歩をされるお年寄りや掃除をされる方がおられますので、そういう方々にまず情報を伝達して、もし時間帯をずらすことができるのなら下校時にしてほしいと。先ほどエンジェルズの方も言われていましたが、わざわざ活動にまで出ていただかなくて結構ですが、玄関の先まで出てきていただければありがたいということを素直にお願いして回りました。その時に「何故そういうことを早く伝えてくれないんだ」と言われまして。こういう情報伝達をいかにスムーズに進めるかということも、防犯意識の高まりに非常に寄与すると感じました。一人での運動というのはどうしても広がらないので、点を線にして線を面にする方法が一番大切です。それを継続していくためには常にある程度のエネルギーをもって、皆と話し合いをしていかなければいけないという気がしております。いかに情報を面に広げる努力を進めるか…新たに立ち上げることも非常に抑止力があると思いますが、皆さんのおられる地域の団体の活動と連携して、今やっておられることを少し考えていただくことでかなり広がり抑止力が出る。この地域はちょっと違うぞと思わせることをやっていけば、かなりの違いが出てくるのではないかと考えています。

●司会　　ありがとうございます。今までの取組、現在行っている取組についてのご意見、ご感想等はいただきましたけれども、来年以降の行動目標の設定や今後の展開の方針についてのご意見等もいただきたいと思います。小川委員どうぞ。

●小川富之（愛知学院大学教授）　　犯罪3割減の目標がほぼ確実になり、5割削減という新たな数値目標を出されたということで非常に感動致しました。これまでこういうはっきりした形で目標を掲げることがあまりなかったと思うんですけれども、新しい目標についてもぜひ実現していくように皆で力を合わせていきたいと思います。今日のお話を伺っております、いくつか気が付いた点があるのでちょっと発言をさせていただきます。まず今回のような大きな成果、これは新聞など報道機関等を通じて県民の皆さんに伝わるとは思います、もう少しきちんと伝えていっていただきたい。10月現在で比べてみると36.8%減っている、これは素晴らしい数字だと思います。残念ながら、例えば広島祭りの時に暴走族が騒いだとか、そういう悪いニュースはすぐ近所の話題にのぼって伝わります。だからこそ良いことについてもきちんと伝えていただきたいんです。こういうことで県、行政と警察が頼りになる、広島の大人は頼りになるということを伝えていただきたいと思います。それからボランティアの数がいろいろ増えてきているというお話がございましたが、具体的にどんなボランティアをやってどんな成果があがっているかを伝えてほしい。資料に新しく参加したいという人の数が7割くらいとありましたが、そういう人た

ちが自分はどういった形で関われるのかを考える際に、数がたくさんある、いろんなタイプの団体があり、それぞれこういうことをやっているというようなことを伝えていく必要があると思います。その上で3番目、参加しやすいような仕組みを作っておける。チャンスがあれば参加したいという方がたくさんいらっしゃることは非常に心強いですが、最初の段階ではそのチャンスを作っておかなければならないと思うんです。そういう意味では安佐南のモデル事業は非常に成功を取めていると思います。先ほどボランティアには高齢者の方が多いとおっしゃっておられましたけれども、安佐南では子ども達も「守るんジャー隊」など自主的な活動を始めて、これも非常に大きな成果をあげています。このようにいろんなチャンスを作っておけて広く参加をしてもらおう。また4番目のポイントとして、先ほど吉村さんからも話がありましたが、活動の定着、継続性が大切だと思います。昨年発言させていただいた時に、多様な取組があるけれどもそれぞれ点で存在しているので、何とかそれらを線に結び付けて面にするというお話をしました。その後そういう取組を警察行政がしておられるのをいろんなところで見せていただいて、役割分担をきちんとして連携させていくということもかなり進んできていると思います。では、これを今度は定着させていくためにはどうしたらいいかと申しますと、もうひとつ裾野を広げていく必要があると思いました。例えば、地域や家庭…主に家庭が重要な要素となっていくと思いますけれども、実際に働いておられる世代だと積極的にボランティア活動に一步踏み出すのはなかなかたいへんなので、その方が存在している地域や周りでどういうことが行われているかを町内会の会報などという形で伝えていき、少なくとも家族で食事を取ったりする時に話題になるようにする。残念ながら今家族機能は非常に稀薄化していますから、同時に高齢者に関しては介護保険の改正で地域での支援を強化するための地域広角支援センターというところを通じてフォローアップして、家庭の機能の不足している部分を何とか地域で見えていく。子ども達に対しては子供会などを通じてそれを広げていく。そういう形で継続性、定着性をもたせる取組をしていけばいいじゃないかと思いました。抽象的な発言であり具体性がございませんけれども、少し意見を述べさせていただきました。

●司会　　ありがとうございました。続いて青木委員どうぞ。

●青木暢之（中国新聞）　　今の小川先生の発言に関連して若干PRめきますけれども、我が社の紙面で減らそう犯罪運動のキャンペーンはかなりやってきたつもりですし、これからも5割削減ということでより徹底してやっていきたいと思っております。そんな中でさっき吉村さんのお話に出ました少年犯罪の防止については、あの時「万引き防止」というはっきりした目標があったように思います。資料の中の「身近の犯罪減少対比表」を見ると、ひったくりや自転車盗の減少率が他の犯罪に比べて低いと思います。体感的に犯罪が多いという時には、やはりひったくりや自転車盗をもっと減らしていけないといけないうららうと。もちろん凶悪犯の犯罪の検挙というのは当然ですが、そういうことも

かなり進めていかなければならないと思います。ですから、単年度で「新年度はひたたくりを重点にやる」とか「自転車盗をやる」とか皆さんが分かりやすい目標を設定していたら、私どももそれに応じたキャンペーンをしていきたいと思っています。以上です。

●司会　　ありがとうございました。細田委員どうぞ。

●細田委員　　これはお願いなのですが、地域の人も防犯パトロールが必要ということになれば、役割分担等の研修のようなものを設定してもらいたい。ただパトロールとして回るだけでもいいですが、もしひたたくりみたいな変な人を見かけた場合や、メールで「このパトロール地域に不審者が出ました」と情報が来た時近くで私がパトロールをしていた場合に、誰が110番する担当で、誰が子どもを保護する担当かというようなチームの役割分担などのマニュアルを、研修や資料で少し作って配付してもらえれば。もしそういう情報があった時に、我々パトロールしている防犯団体が、警官じゃないので職務質問などはダメですが、一般ボランティアとしてできる範囲で最高のことをするように研鑽も積んでいかなければと考えておりますので。できましたらそういうマニュアル、情報を警察の方でも出していただいて、防犯団体も増えてきたので研修をするという方向も少し考えていただければと思います。

●司会　　ありがとうございました。他にはございませんか？ 野田委員どうぞ

●野田純子（女性団体）　　私どもも26年間子ども達に登下校で挨拶運動を続けております。ということは、子ども達との連携をとる、またそれぞれ挨拶運動に出る方同士も顔なじみになるという地域づくりが一番じゃないかと思います。その地域づくりも一団体でできるものではないので、ぜひ連携を取って、皆様それぞれの団体が一緒になって地域づくりに邁進していけば、より安全な地域づくりができるのではないかと確信します。ぜひそういう方向に進めばいいかと、今皆様のお話をお聞きしながら考えました。以上です。

●司会　　ありがとうございました。時間も残り少なくなってきましたので、ご発言がおありでしたらお願いします。よろしゅうございますか？ それではここでお二人の副会長の方からご感想、ご意見を頂戴したいと思います。まず宇田副会長いかかでございますか。

●宇田誠（副会長）　　皆さん、本当に日夜ご苦勞をおかけしております。確か2年半ほど前ですが、この会議で削減目標を30%と言われた時には、果たして可能だろうかという思いが私自身、ございました。なるほど数値目標も結構だけど、果たしてどうやっていくのが望ましいのかと。しかしその時ご参加の皆様方から予防策や犯罪が起きた後の対応

策など積極的なご発言がございました。そして実はすでに3年になる前に36.8%ということで、この度非常に達成感を味わえる会合になったわけです。それを踏み台にしてこれから向こう5年間で半減していこうじゃないかと、今また非常に前向きで積極的なご発言がございました。考えてみますと、それぞれが我が身を守ることが一つ、そして連帯意識を持って地域で守っていこうという連携、例えば自治会などと思いますが、やはり原点はまず自己防衛というのが基本にあるのだろうと。それを誘発するために、広報活動は非常に意義あることだと思えます。例えばこの36.8%というのは貴重な成果ですが、次のステップに向けて、これを周知徹底させることが大事じゃないかなと。やればできる、そのためには自らがそういう意識を持って、まず自分を守りながら、連帯意識でもって自治会なり取組なりに参加する。先ほど聞きましたように、ボランティア活動に機会があれば参加したいという人たち、大きな数字であります。この人たちを引き出すのは身近な問題からだろうと思うわけであり。そういうなかで積極的、前向きなご意見が多々ございました、マニュアル、これは基本だと思えます。例えばひったくりについても基本技というものがあって、これをいかに応用していくかということです。これを自らだけでなく地域の人たちで学んでいくということ。こういう、点から線、線から面という啓蒙活動は大事であると思うわけでございます。知事が日頃おっしゃっているように「住みたい広島県」づくり、安全・安心で本当に住んでみたい、住みたい広島県づくりにつながります。私が県知事に成り変わってという表現が悪いですが、一時は県民の減少傾向がありましたが、やや止まってきたんじゃないですか？ 微増に入りつつあるようです。いろいろな要素があるかと思えますが、やはり犯罪防止という問題も大きく影響してきていると思えます。とにかく一緒になってしっかりとやっていきたいと思えます。

●司会 ありがとうございます。では続きまして片岡副会長どうぞ

●片岡義篤（副会長） 皆様方のいろんな意見を拝聴させていただきました。本日のメインテーマは来年からの行動目標をどうするかというところでございます。この3年間「3年で3割削減」という非常にわかりやすい目標に向かって、皆様方と色々な協働をして取り組みまして何とか実現できるんじゃないかという見通しになりました。そして、では来年からどうするんだということですが。実は最近の新聞を見ていますと、この減らそう犯罪県民総ぐるみ運動が今年で最終年だと誤解されている方がおられるんですが、「3年3割削減」は当面の抑制目標として出したわけでありまして、減らそう犯罪の条例自体はエンドレスなんですね。従いまして減らそう犯罪運動は当面続きますが、そういうふうに勘違いされている方もおられる。またアンケートではこういった運動を50%の方が知らないと言われております。これだけ我々がいろんな働きかけをしておりますも、必ずしも県民の皆様方に浸透していないのではないかということもあるので、次回からもっと裾野を広げるようなキャンペーンをやらないといけないと思えます。過去のこの議事録を見ます

と、例えば県民大会を開いたらどうかというようなご提案もございましたので、第2期として「減らそう犯罪運動小津」をバージョンアップして展開したい、知恵を絞って工夫をしていきたいと思っております。そして行動目標も今度は5年で半減しようじゃないかということでもありますけれども、もしこのままのペースでいきますと、過去最高は6万件でございましたが、今回4万件を切るような状況になります。そうすると我々の目標は3万件でございますから後1万件弱じゃないか、5年もかかるのかという疑問もないではないです。が、ただ正直なところ、いわゆるリバウンドということも考えられないではない。また限界効用逓減の法則というのもあり、減少率がだんだんと落ちていくということもございます。また今後の治安情勢をみた場合、犯罪増加の要因はありますけれども、減少するという楽観的な要因はないと思うんですね。そういう中で更に1万件減らすというのは簡単にはいかないのではないかとということで、今回は5年というのを出しました。これはちょうど今県が総合計画というのを今後4年間に向けて作っておりますが、それとリンクさせてやろうじゃないかと、そういう発想もございます。従いまして5年くらいかけて何とか後1万件下げて3万件、先ほど成安部長が昭和40年代から50年代前半と申しましたが、いわゆる世界で一番安全な国日本と言われた時代の平穏な治安情勢に戻すことを目標にやっていくことを、今回の目標設定にさせていただきたく思いました。では具体的に何をやるのかですが、ひとつは先ほども出ましたが情報の提供、情報の発信、これはやっぱり大事です。警察もホームページを作ったり、「減らそう犯罪通信」などの資料を出したりしていますけれども、果たしてどこまで皆様のお手元に行っているか、また見ていただいているかということもございますので、この辺もさらに知恵を絞って工夫をしながら情報発信をやっていきたいと思えます。それから自治防犯活動の一層なる促進もそうでございます。防犯ボランティアに、今大変多くの方々に参加されております。しかしこれも今は県や警察が旗を振っていますからいろんな方が参加されてはいますが、もし警察や行政がちょっと腰を引いた場合果たして皆様方が自主的にやっついていけるのか、お金の問題はどうするのかと。確かに自主防犯ですから本来は自分たちのお金でもってやっっていくのが筋かもしれませんが、じゃあ急にそういう切り替えができるかということ、なかなか難しいと思うんですね。ましてやこれから今安佐南区でやっていることを各市や町に広げていこうとする時に、さあ各市や町で判断してやって下さいというわけにはいかないと思うので、各市町が取り組む時に県としてもある程度の支援事業というのはいかなものか等、県知事にもいろいろお願いしていることもございます。出来るだけ裾野を広げるためにも、市や町が率先して、地域住民の防犯ボランティアやガーディアンエンジェルスなどのNPO団体、こういう方々がますます一生懸命やっついていただくということがたいへん大事だと思います。そうしますと、警察は本来の、検挙活動と言いましょか…そちらの方ももっともって成果があがるのではないかなと感じているところであります。

●司会 ありがとうございます。皆様方からもっと多くのご意見なりご感想をいただ

きたいですが、時間の関係もございますので、藤田会長に本日の全体のまとめをいただきたいと思います。お願い致します。

●会長 皆様には積極的なご意見を頂戴致しまして、ありがとうございました。様々なご意見がございましたけれども、個人的には、選挙中に安佐南の方に行きますと、自転車の前のバスケットに減らそう犯罪と書いた黄色いビニールを掛けた方がおられました。街頭宣伝車ですから名前を連呼しているのですが、ついマイクを取って「ご協力ありがとうございます！」と言いたくなるような機会が随分ございました。そういうふうに見えること、見えていることが、点がつながって線になり面になっていく。またそのためにも迅速な情報提供が大事だと再認識したということもございました。そこで今後の行動目標でございますけれども、先ほどから今後5年間でピーク時の5割削減、半減を目指すというお話がございました。項目別に見ますと既に達成できているものもございますけれども、性犯罪や見えにくい部分ではまだまだのところもあります。またリバウンドというお話もございました。そういう意味では、とりあえず今後5年間でピーク時の半減を目指すということを第1目標にして、仮に半減が出来たら、その時点でもう1回新しい目標を改めて討議するというような目標を持っていてはいかかかと考えております。ま、高い目標ではございますけれども、引き続きそういう努力をしてみることが重要ではないかと思っております。また今後の運動の展開方針につきましても県民と協働するまちづくりと、警察活動の両輪により、今後取り組んでいければと考えておりますが、皆様いかがでございましょうか？（拍手）ありがとうございました。拍手を頂戴しましたので今申し上げますような行動目標に向けまして県民、事業者、関係団体、さらには行政が一体となって各種取組を進めて参りたいと考えております。皆様方にも一層のご協力を頼みますよう、よろしく願い申し上げます。それでは予定の時間となりましたので、委員の皆様方にはたいへん熱心なご議論を頂戴いたしましたことを感謝申し上げます。平成15年2月に本会議を発足させ、今回で4回目の会議となったわけでございますが、その際に目標として掲げました3年3割減という数値目標の達成も見えてまいりました。今後は、本日皆様方からご賛同いただきました行動目標に向けまして、文字通り県民が一丸となって取組を推進してまいりたいと考えておりますし、その結果として県民の皆様の体感治安がよくなって、住んでみたい広島県に向けてよりいっそう安全・安心が前進すること、そして皆様のお力添えによってそういったものが実現することを願ってやまない次第でございます。そういった意味で皆様方の今後さらなるご協力をお願い申し上げます、御礼のご挨拶と代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

●司会 皆様、長時間本当にありがとうございました。以上をもちまして減らそう犯罪推進会議を終了いたします。ありがとうございました。